

第91回 定時株主総会

招集ご通知

○開催日時

2021年6月24日（木曜日）午前10時

○開催場所

新潟市中央区川岸町3丁目18番地

新潟放送 本社 1階 ラジオ第1スタジオ

【株主様へのお願い】

新型コロナウイルス感染防止の観点から、本年も、出来るだけ議決権行使書のご利用をお願いいたします。ご来場の場合は、マスク着用をお願いいたします。なお、体調がすぐれないと見受けられる方には、ご来場をお控えいただきますので、あらかじめご了承ください。

議決権行使書提出期限

2021年6月23日（水曜日）

午後5時まで

*本年も、感染リスク低減のため、ご出席株主様へのお土産の配布を取り止めさせていただきます。

○目次

第91回定時株主総会招集ご通知 1

株主総会参考書類 3

添付書類

事業報告 9

計算書類 27

監査報告書 38

(証券コード 9408)

2021年6月8日

株 主 各 位

新潟市中央区川岸町3丁目18番地

株式会社新潟放送

代表取締役社長 佐藤 隆夫

第91回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当社第91回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

当日ご出席されない場合は、書面により議決権を行使することができますので、後記の「株主総会参考書類」をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき

2021年6月23日(水曜日)午後5時までに議決権をご行使くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2021年6月24日(木曜日)午前10時

2. 場 所 新潟市中央区川岸町3丁目18番地
新潟放送 本社 1階 ラジオ第1スタジオ

3. 会議の目的事項

- 報 告 事 項
1. 第91期(2020年4月1日から2021年3月31日まで) 事業報告の内容報告の件
 2. 第91期(2020年4月1日から2021年3月31日まで) 計算書類の内容報告の件

決 議 事 項

第1号議案 剰余金の処分の件

第2号議案 取締役10名選任の件

以 上

~~~~~

◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

◎株主総会参考書類並びに事業報告及び計算書類に修正すべき事情が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト(<https://www.ohbsn.com>)に掲載させていただきます。

## 株主様から事前のご質問

新型コロナウイルス感染防止の観点から外出を控えられる株主の皆様より、第91回定時株主総会への事前のご質問を、電子メールにて受け付けいたします。

ご質問のある株主様は、下記のアドレスに必要事項を記入し、お送りください。

**受付期間：**2021年6月10日（木曜日）～2021年6月20日（日曜日）

**必要事項：** お名前 議決権行使書に記載された株主番号

**メールアドレス：**bsn-soukai@bsn-niigata.co.jp

※お受けしたご質問で株主の皆様の関心が高いと思われる事項につきまして定時株主総会で取り上げさせていただく予定です。また、後日当社ウェブサイト IR情報で公表いたします。

※ご質問した株主様のお名前を公表することはいたしません。

※なお、すべてのご質問にお答えできるわけではございませんのでご了承をお願いいたします。

※取り上げることができなかったご質問につきましては今後の参考とさせていただきます。

# 株主総会参考書類

## 第1号議案 剰余金の処分の件

当社は、長期にわたる安定した経営基盤のもとに株主の皆様へ安定的な配当を継続することを経営の基本方針の一つとして位置づけております。

この基本方針のもとに、今後のラジオ放送並びにテレビ放送の技術革新や強靱化に向けた設備投資、災害時でも放送を継続できる社屋の改修工事に備えるため、期末配当及びその他の剰余金の処分につきましては、次のとおりといたしたいと存じます。

### 1. 期末配当に関する事項

#### (1) 配当財産の種類

金銭といたします。

#### (2) 配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当期の期末配当につきましては、普通株式1株につき3円75銭の普通配当といたしたいと存じます。

この場合の配当総額は22,495,868円となります。

なお、これによりまして年間配当金は、既に実施いたしました中間配当の3円75銭と合わせて、1株につき7円50銭となります。

#### (3) 剰余金の配当が効力を生じる日

2021年6月25日といたしたいと存じます。

### 2. その他の剰余金の処分に関する事項

#### (1) 減少する剰余金の項目とその額

繰越利益剰余金 500,000,000円

#### (2) 増加する剰余金の項目とその額

放送設備更新積立金 300,000,000円

社屋改修積立金 200,000,000円

## 第2号議案 取締役10名選任の件

取締役全員は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、本総会におきまして取締役10名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号 | 候補者氏名 | 現在、当社での地位 |    |    |    |
|-------|-------|-----------|----|----|----|
| 1     | 佐藤隆夫  | 代表取締役社長   | 再任 |    |    |
| 2     | 島田好久  | 専務取締役     | 再任 |    |    |
| 3     | 大竹正敏  | 常務取締役     | 再任 |    |    |
| 4     | 五十嵐幹史 | 取締役       | 再任 |    |    |
| 5     | 宮腰尊史  | 取締役       | 再任 |    |    |
| 6     | 谷内 聡  | 執行役員      | 新任 |    |    |
| 7     | 小田敏三  | 取締役       | 再任 | 社外 |    |
| 8     | 並木富士雄 | 取締役       | 再任 | 社外 |    |
| 9     | 島田喜広  | 取締役       | 再任 | 社外 |    |
| 10    | 山井 太  |           | 新任 | 社外 | 独立 |

### 取締役候補者に特に期待する分野

※各候補者につき3つまで記載しています。

| 候補者番号 | 氏名    | 企業経営 | 財務・会計 | 人材開発 | 営業・販売 | コンテンツ開発 | 事業戦略 |
|-------|-------|------|-------|------|-------|---------|------|
| 1     | 佐藤隆夫  | ○    |       |      |       | ○       | ○    |
| 2     | 島田好久  | ○    |       |      | ○     |         | ○    |
| 3     | 大竹正敏  | ○    |       |      | ○     | ○       |      |
| 4     | 五十嵐幹史 |      |       | ○    | ○     | ○       |      |
| 5     | 宮腰尊史  |      | ○     | ○    |       | ○       |      |
| 6     | 谷内 聡  |      |       |      | ○     | ○       | ○    |
| 7     | 小田敏三  | ○    |       |      |       | ○       | ○    |
| 8     | 並木富士雄 | ○    | ○     |      |       |         | ○    |
| 9     | 島田喜広  | ○    |       |      |       | ○       | ○    |
| 10    | 山井 太  | ○    |       | ○    |       |         | ○    |

| 候補者番号        | 氏 名<br>(生年月日)                                                         | 略歴、当社における地位、担当<br>及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1<br><br>再 任 | さ と う た か お<br>佐 藤 隆 夫<br>(1958年6月21日生)<br><br>所有する当社の株式数<br>6,100株   | 1982年4月 (株)新潟放送 入社<br>2007年4月 当社報道制作局情報センター報道担当部長<br>2008年4月 当社報道制作局情報センター制作担当部長<br>2009年6月 当社経営管理局秘書部長<br>2011年7月 当社経営管理局次長兼社長室長兼人事部長<br>2013年6月 当社事業局長<br>2015年4月 当社東京支社長兼営業副本部長<br>2015年6月 当社取締役東京支社長兼営業副本部長<br>2017年6月 当社代表取締役社長 (現在に至る) |
|              |                                                                       | 取締役候補者とした理由<br>佐藤隆夫氏は、当社社長に就任以来、経営の重要事項の決定及び業務執行に対する監督など社業の発展に努めております。報道・番組制作・事業分野など、これまでの経験と実績は、当社グループの企業価値の向上に寄与するものと期待されることから、取締役候補者いたしました。                                                                                               |
| 2<br><br>再 任 | し ま だ よ し ひ さ<br>島 田 好 久<br>(1958年3月16日生)<br><br>所有する当社の株式数<br>5,300株 | 1989年10月 (株)新潟放送 入社<br>2011年4月 当社営業局長<br>2013年6月 当社取締役東京支社長<br>2015年4月 当社取締役編成局長 番組審議会担当<br>2017年3月 当社取締役放送本部長<br>2017年6月 当社常務取締役放送本部長<br>2018年4月 当社常務取締役経営戦略室長<br>2019年6月 当社専務取締役経営戦略室長<br>2020年4月 当社専務取締役 (現在に至る)                          |
|              |                                                                       | 取締役候補者とした理由<br>島田好久氏は、当社専務取締役として、民放経営に関する十分な実績を残しており、これまでの経験から、経営戦略の立案等に貢献するものと期待され、取締役候補者いたしました。                                                                                                                                            |

| 候補者番号        | 氏 名<br>(生年月日)                                                                 | 略歴、当社における地位、担当<br>及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                          |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3<br><br>再 任 | おお たけ まさ とし<br><b>大 竹 正 敏</b><br>(1960年8月9日生)<br><br>所有する当社の株式数<br>1,700株     | 1983年4月 (株)新潟放送 入社<br>2010年4月 当社経営管理局総務部長<br>2013年7月 当社報道制作局次長兼情報センター報道担当部長<br>2017年3月 当社放送本部情報センター長(局長)<br>2017年6月 当社取締役経営管理本部長<br>2019年6月 当社常務取締役営業本部長(現在に至る)                                                                       |
|              |                                                                               | 取締役候補者とした理由<br>大竹正敏氏は、当社常務取締役として、経営管理の分野で実績を残してきました。経営に関する豊富な経験と知識を有しており、取締役候補者いたしました。                                                                                                                                                |
| 4<br><br>再 任 | い が ら し も と し<br><b>五十嵐 幹 史</b><br>(1959年10月13日生)<br><br>所有する当社の株式数<br>2,000株 | 1982年4月 (株)新潟放送 入社<br>2007年4月 当社報道制作局情報センター制作担当部長<br>2008年4月 当社報道制作局情報センター報道担当部長<br>2013年6月 当社報道制作局長兼情報センター長<br>2015年4月 当社長岡支社長<br>2016年6月 当社常勤監査役<br>2020年6月 当社取締役メディア本部長兼技術局長<br>2021年4月 当社取締役メディア本部長兼編成局長兼技術局長<br>番組審議会事務局長(現在に至る) |
|              |                                                                               | 取締役候補者とした理由<br>五十嵐幹史氏は、番組制作、報道などの部門で、十分な実績を残しており、常勤監査役として、会社業務全般を監督してきた経験も有しており、取締役候補者いたしました。                                                                                                                                         |
| 5<br><br>再 任 | み や こ し た か し<br><b>宮 腰 尊 史</b><br>(1961年3月24日生)<br><br>所有する当社の株式数<br>300株    | 1983年4月 (株)新潟放送 入社<br>2008年4月 当社長岡支社営業部長<br>2010年4月 当社テレビ編成部長<br>2012年4月 当社報道制作局情報センターテレビ制作担当部長<br>2017年7月 当社東京支社長<br>2019年7月 当社執行役員経営管理本部長<br>2020年6月 当社取締役経営管理本部長兼CSR推進室長(現在に至る)                                                    |
|              |                                                                               | 取締役候補者とした理由<br>宮腰尊史氏は、番組制作を中心とした放送全般で実績を残してきました。これまでの経験を活かし、当社事業の業務執行を適切に遂行できると判断し、取締役候補者いたしました。                                                                                                                                      |

| 候補者番号                 | 氏 名<br>(生年月日)                                                                                                                      | 略歴、当社における地位、担当<br>及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6<br><br>新任           | 谷 内 聡<br>(1961年4月6日生)<br><br>所有する当社の株式数<br>4,000株                                                                                  | 1985年 4 月 (株)新潟放送 入社<br>2011年 4 月 当社営業局営業部長<br>2015年 4 月 当社事業局次長<br>2016年 6 月 当社長岡支社長<br>2019年 6 月 当社執行役員営業本部副本部長兼東京支社長<br>(現在に至る)                                                                                                                                                                         |
|                       | 取締役候補者とした理由<br>谷内聡氏は、当社において営業分野で実績を残してきました。これまでの経験を活かし、当社の事業に関する意思決定及び業務執行を適切に遂行できると判断し、新たに取締役候補者いたしました。                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 7<br><br>再任<br><br>社外 | 小 田 敏 三<br>(1950年6月8日生)<br><br>所有する当社の株式数<br>0 株                                                                                   | 1974年 4 月 (株)新潟日報社 入社<br>2008年 3 月 (株)新潟日報社取締役編集局長<br>2010年 3 月 (株)新潟日報社常務取締役営業統括本部長<br>2013年 3 月 (株)新潟日報社専務取締役<br>2014年 3 月 (株)新潟日報社代表取締役社長 (現在に至る)<br>2014年 6 月 当社社外取締役 (現在に至る)<br>2014年 8 月 社会福祉法人新潟県共同募金会会長 (現在に至る)                                                                                    |
|                       | 社外取締役候補者とした理由<br>小田敏三氏は、地元に着した紙面づくりにより地域経済、社会、文化の向上に努める(株)新潟日報社の経営者として、報道機関の役割など総合的な見地から当社にアドバイスを与えることができる存在であることから社外取締役候補者いたしました。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 8<br><br>再任<br><br>社外 | 並 木 富士雄<br>(1951年6月20日生)<br><br>所有する当社の株式数<br>0 株                                                                                  | 1975年 4 月 (株)第四銀行 入行<br>2005年 6 月 (株)第四銀行取締役三条支店長<br>2008年 4 月 (株)第四銀行常務取締役営業本部長<br>2011年 6 月 (株)第四銀行専務取締役<br>2012年 6 月 (株)第四銀行取締役頭取<br>2013年 6 月 当社社外取締役 (現在に至る)<br>2018年10月 (株)第四北越フィナンシャルグループ代表取締役社長<br>2021年 1 月 (株)第四北越銀行取締役頭取<br>2021年 4 月 (株)第四北越フィナンシャルグループ代表取締役会長 (現在に至る)<br>(株)第四北越銀行取締役 (現在に至る) |
|                       | 社外取締役候補者とした理由<br>並木富士雄氏は、(株)第四北越フィナンシャルグループの経営者として、専門性の高い見識を有しており、経営全般に関し、重要な示唆を与えることのできる存在として、社外取締役候補者いたしました。                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

| 候補者番号             | 氏 名<br>(生年月日)                           | 略歴、当社における地位、担当<br>及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9                 | しま だ よし ひろ<br>島 田 喜 広<br>(1960年12月10日生) | 1984年 4 月 (株)東京放送 入社<br>2009年 4 月 (株)TBSテレビ報道局ニュースセンター長<br>2012年 2 月 TBSInternational,Inc.出向 President<br>兼(株)TBSテレビ報道局ニューヨーク支局長<br>2015年 4 月 (株)TBSテレビ情報制作局長<br>2018年 7 月 (株)TBSテレビ総合戦略室担当局長<br>(株)テレパック現職出向、同社代表取締役社長<br>2019年 7 月 (株)TBSテレビグループデザイン局担当局長<br>(株)テレパック現職出向、同社代表取締役社長<br>2020年 6 月 (株)TBSテレビ 執行役員 (現在に至る)<br>当社社外取締役 (現在に至る) |
| 再 任<br>社 外        | 所有する当社の株式数<br>0 株                       | 社外取締役候補者とした理由<br>島田喜広氏は、TBSグループの中核である(株)TBSテレビにおいて報道分野・番組制作分野で豊富な知見を有し、当社に重要な指針を与えることのできる存在として社外取締役候補者といいました。                                                                                                                                                                                                                                |
| 10                | やま い とおる<br>山 井 太<br>(1959年12月18日生)     | 1986年 7 月 (株)ヤマコウ (現 スノーピーク) 入社<br>1989年 1 月 (株)スノーピーク取締役事業部長<br>1992年 1 月 (株)スノーピーク常務取締役<br>1992年 8 月 (株)スノーピーク代表取締役副社長<br>1996年12月 (株)スノーピーク代表取締役<br>2016年 3 月 (株)スノーピーク代表取締役社長<br>2019年 7 月 Snow Peak USA,inc CEO(現在に至る)<br>2020年 3 月 (株)スノーピーク代表取締役会長 (現在に至る)                                                                            |
| 新 任<br>独 立<br>社 外 | 所有する当社の株式数<br>0 株                       | 社外取締役候補者とした理由<br>山井太氏は、アウトドア分野を中心に常に高い見地から卓越した経営手腕を発揮してきました。これまで多岐にわたる分野で培った幅広く深い知見と経験で、当社に有益な意見・提言等をいただける存在として、新たに社外取締役候補者といいました。                                                                                                                                                                                                           |

- (注) 1.小田敏三、並木富士雄、島田喜広、山井太の4氏は社外取締役候補者であります。
- 2.取締役候補者と当社との特別の利害関係は次のとおりであります。
- (1)小田敏三氏が代表取締役社長である(株)新潟日報社は、当社の筆頭株主であるとともに、報道部門等において同社と密接な業務提携関係にあります。
- (2)並木富士雄氏が代表取締役会長である(株)第四北越フィナンシャルグループの中核である(株)第四北越銀行は、当社の主力取引銀行であります。
- (3)島田喜広氏が執行役員である(株)TBSテレビは当社加盟のJNNネットワークのキー局であり、ニュース取材、番組、技術、営業面で、密接な関係を築いております。
- (4)他の取締役候補者との間には特別の利害関係はありません。
- 3.社外取締役候補者に関する特記事項は以下の通りであります。
- (1)独立役員について  
山井太氏は東京証券取引所の定めに基づく独立役員の要件を満たしており、独立役員とする予定です。
- (2)社外取締役に就任してからの年数について  
本総会終結の時をもって、小田敏三氏は7年、並木富士雄氏は8年、島田喜広氏は1年であります。
- (3)当社は、従来より社外役員との責任限定契約についてはこれを締結しておらず、上記の社外取締役候補者につきましても契約締結は予定しておりません。

以 上

## (添付書類)

# 事業報告

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

## 1. 会社の現況に関する事項

### (1) 事業の経過及び成果

当期におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、日本国内においても4月に緊急事態宣言が初めて発令されるなどの影響で停滞しました。各種イベントや行事が中止または延期で経済活動は制限を受け、企業収益や雇用・所得環境が悪化しました。緊急事態宣言の解除で一時的に持ち直しの動きが見られたものの、その後、第2波、第3波と再拡大の兆候もあり、社会経済の回復は鈍化しました。依然として新型コロナウイルスの感染状況は収束することなく、景気の先行きは不透明な状況が続いています。

この結果、当期の営業収益は56億7千2百万円と、前期に比べ10.8%の減収となりました。利益面におきましては、営業費用は減少しましたが、経常利益は3億5千3百万円と、前期に比べ38.0%の減益となりました。最終的な当期純利益でも2億6千3百万円と、前期に比べ35.2%の減益となりました。

部門別の概況は次のとおりであります。

#### ラジオ部門

当期ラジオ収入は、前期比6.0%減の6億6千万円となりました。スポット出稿の大幅な減少やキー局の配分をはじめとした県外のタイム出稿が減り、さらに、新型コロナウイルス感染拡大の影響でイベント関連の実施が難しかったことが主な要因です。

番組では2020年6月末のFM PORT(新潟県民エフエム放送)の閉局に伴い、人気の番組やパーソナリティーの移行を進めるため、当社としては例年になく8月の番組改編を実施しました。

新潟ラジオ界の朝の顔だった遠藤麻理さんを起用した新番組「四畳半スタジオ」は、リスナー離れが深刻だった午後帯に新風を吹き込みました。番組は開始直後から話題となりradiko(ラジオ放送をパソコンやスマートフォンで聴けるサービス)のデータでは、BSNラジオ史上初の1日1万回接続を記録しました。

また今年2月、新潟日報メディアシップを会場に初の公開放送を実施し、定員80人のところ、3,000人が応募する人気ぶりでした。ラジオ放送とともに実施したYouTubeのライブ配信でも再生回数1万5,000回を記録しました。

このほか、フリーアナウンサーの立石勇生さんを起用した新番組「SUNNY SIDE」を土曜午後1時からの放送枠に組み入れました。また、音楽やイベント、商品開発など様々な分野で活躍するSWAMP(スワンプ)さんがMCを務める番組「A L a i d - b a c k L i f e -旅するテント-」も毎月最終日曜日のラインナップに加えました。

こうした改編に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響により在宅時間が増えたことなどで、ラジオに親しむ人たちが増えています。r a d i k oのデータによりますと、BSNラジオの2019年度の接続回数は月間平均20万回だったのに対し、去年8月の改編以降は平均50万回と2.5倍に増え、全国のラジオ局の中でも目立つ大幅な伸びとなりました。

地震や水害などの災害が相次ぐ中、情報収集に役立つラジオの存在が改めて見直されています。BSNラジオは、音声コンテンツとしてだけでなく、相性が良いとされるSNSやライブ配信などとの連携も今後さらに進め、新たなリスナー獲得を目指してまいります。

## テレビ部門

当期におけるテレビ収入は、前期比9.5%減の44億7千9百万円となりました。これは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で多業種スポンサーの出稿が鈍り、収益の柱となるスポット収入が大きく伸び悩んだことが大きな要因です。

番組制作については、10年目を迎えたゴールデンタイムのレギュラー番組「水曜見ナイト」(水曜午後7時～8時)では、人々との温かいふれあいを描くシリーズ「県境から行ってみずほ」を放送しました。三条市下田で棚田を守る農家に半年間密着して、田植えから収穫、米の販売イベントまでを適宜紹介し、今年1月には総集編を放送しました。また、偶然出会った人たちに人生を振り返ってもらう新企画「人生劇場」をラインナップに加えました。番組の年間平均視聴率(世帯)は10%を超え、東京キー局の番組と比べても遜色ない実績を上げました。

土曜お昼のレギュラー番組「土曜ランチTV なじラテ。」(土曜午後0時10分～午後2時)では、メインMCの三石佳那アナウンサーが「グルメポリス」に扮する「グルメ大捜査」がレギュラーコーナーとなり人気を獲得しました。また、「好きなラーメンは?」「好きな戦国武将は?」など視聴者アンケートなどをもとに様々なテーマで「ベスト10」を当てる新コーナーを定着させるなど、視聴者との双方向性を意識しながら楽しい番組づくりに挑戦しました。その結果、2019年度の年間平均視聴率5.0%から2020年度は7.4%とジャンプアップさせることができました。

このほか、2019年度に放送したBSNスペシャル「芸術の価値 舞踊家 金森穰16年の闘い」が令和2年度文化芸術祭賞のテレビ・ドキュメンタリー部門で「大賞」、第45回JNN協議会地域・環境部門で「協議会賞」を受賞、第57回ギャラクシー賞のテレビ部門で「選奨」に輝きました。また、民間放送教育協会のレギュラー番組「日本のチカラ」(日曜午前5時45分～6時15分)で放送した「まちごと美術館」が2020年度の日本のチカラ番組選奨で「総務大臣賞」を受賞するなど、BSN制作の複数の番組が全国規模で高い評価を受け、社名高揚に大きく貢献

しました。

全国放送ではTBS制作のドラマが好調でした。中でも前作「倍返しだ！」で一世を風靡した「半沢直樹」が今作も高視聴率をマーク。最終回は32.6%、全話平均でも26.1%を獲得しました。また、新潟ロケ情報を得た番組に関しては積極的な番宣展開を行い、新潟市内の数店舗を紹介した10月25日（日）放送の「バナナマンのせっかくグルメ」では番組平均視聴率が23.1%を獲得するなど、新潟が話題となった番組はいずれも通常より高視聴率を記録することができました。

報道部門では、平日夕方のレギュラー番組「BSN NEWS ゆうなび」（月～金 午後6時15分～）の放送を軸に情報発信の多様化をいっそう進めました。スマホ等で手軽に情報収集ができて利用者也増えている「BSNアプリ」を活用した速報にも努め、今期は特に新型コロナウイルス関連の情報を充実させて市民の関心に応えました。また、多くの人が利用するポータルサイトへのニュース配信も強化し、Yahoo!（ヤフー）に掲載されたBSNの記事への今期のアクセス数(PV)は月間平均500万に達しました。

日常的な取材活動では、自治体や企業などの発表に頼らず、独自の調査で事実を集めて報道するよう努めました。今期は「ゆうなび」内に新コーナー「ど～いん新潟」を立ち上げ、「撮り鉄のマナー」、「危険なバス停」、「海岸に無数のイワシ」など視聴者から寄せられた疑問等を解決する特集を定期的に放送しました。

また、社会全体で取り組むべきSDGsの推進を目指して、「ゆうなび」内に今期新たに「新潟から、SDGs」と銘打ったシリーズを設定し、「酒粕で米づくり」（4月放送）、「障害者アートのエコバッグ」（7月放送）、「貧困の子どもを古着で支援」（11月放送）などの放送実績を上げました。

さらに日々伝えるニュースの延長線で番組化をはかる「ゆうなびスペシャル」の制作にも力を入れました。今期放送した番組は、「届かなかった、父の願い」（6月放送）、「教室のミライ」（8月放送）、「コイビト」（9月放送）、「花街の女」（10月放送）、「回顧2020」（12月放送）の計5本に上りました。

SNSなどの普及に伴って情報の混濁化も見られる中、確かな取材に基づいた信頼性の高い情報の価値がいっそう高まっています。報道部門では今後も真実に迫る努力を怠らず、正確な情報の把握と伝達に専心してまいります。

## その他の部門

当期におけるその他の部門の収入は、前期比24.5%減の5億3千2百万円となりました。当期は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、安全性と収益を精査した結果、プロ野球公式戦の他、コンサートやお笑いライブ、落語など、ホールで実施する事業は、予定していた21のうち15事業が中止となりました。

そのような状況下で上期に新潟市マンガ・アニメ情報館で開催しました「まんがタイムきらら展」は1万1,000人が来場。一定層に根強い人気があるコンテンツのためグッズの売り上げも好調でした。下期に入りまして、新潟市新津美術館で開催しました「特別展ミイラ」は、感染予防対策のため入場を制限しながらではありましたが5万9,000人と多くの方にご来場いただきました。有料観覧者数も4万5,000人を超え、有料観覧者数としては新津美術館の過去最高となりました。新潟県立万代島美術館で開催の「岡本太郎展 太陽の塔への道」は新潟県の意向を受け、前売り券が販売できないという状況でしたが、BSNアプリを活用した事前予約割引システムを新たに構築してチケット販売に注力しました。その結果、2万7,000人と目標を超える集客となりました。新潟市マンガ・アニメ情報館で開催された「鬼滅の刃展」は当期最大の話題作という事もあり、混雑することが想定されたため、1時間あたり100人の完全時間制の予約チケットを抽選で販売。会期中に1万7,000人の動員がありましたが、15分刻みに来場を促したり、オペレーションのためのスタッフを増員したりと対策を講じ、新型コロナウイルス感染症予防を徹底させ、最終日までトラブルもなく実施することができました。グッズも新潟開催限定商品を中心に好調に販売することができ、収入に大きく貢献することとなりました。

また、デジタル分野として「新潟の今とつながる」をコンセプトに2019年4月に立ち上げたスマートフォン向けアプリ「BSNアプリ」が2021年3月、6万ダウンロードを達成しました。ラジオやテレビの番組と連動する企画に加え、ポイント機能も追加。またラジオ番組をライブ配信するなど新たなユーザー獲得を視野に入れて利便性の向上にも取り組みました。さらにアプリならではのPUSH通知を使って、ニュースや地震・気象速報、ライブ配信など即時性を重視した情報発信を強化しました。

その他、デジタルニーズへの対応として、「Yahoo!ニュース」等ポータルサイトへの情報提供を充実させた結果、自社サイトのアクセス数は前年比3倍の伸びとなりました。VR映像制作は4年目、ドローンによる映像制作は3年目を迎えました。ドローン映像はテレビ番組「そらなび」の放送を軸に、アーカイブした映像をDVD BOOKで販売しました。VR映像制作は「VR NIIGATA」を事業の中心としてセールスを実施してきましたが、当該アプリのサービス終了に伴い、専用GoogleやYouTubeを新たなプラットフォームに事業を継続しています。今年度は自治体から観光VR映像制作を受託しました。次年度以降も営業部門との連携を一層強化し、自治体や企業向けの動画コンテンツの制作に力を注ぎます。

## (2) 設備投資等の状況

当期における設備投資は、総額6億3百万円であり、主なものは次のとおりであります。本社設備では、2006年2月から使用していたラジオマスターを2月に更新しました。マスター設備は、「放送局の心臓部」とも言われており、放送の安定送出のための最重要インフラです。また老朽化に伴い、本館空調設備の第1期更新工事を実施しました。こちらは本館全体にかかわる大規模工事で放送業務との兼ね合いもあるため、4か年（各年3か月程度の工事）での工事完了を予定しております。その他、本社・弥彦送信所間のフェージング対策として光STL装置を設置したり、ヘリコプター中継などの信号を受信するためのパラボラ回転雲台を更新したりしました。送信所設備では、送信周波数94.8MHzで、高田FM中継局を開局（設置）。これにより、上越市エリアでもワイドFMを聞いていただける環境が整いました。なお開局に際しては、既設テレビ中継局の局舎、鉄塔を使用する事により経費の削減に努めております。また、テレワーク対応のためノートPC型ノンリニア編集機2式の導入、及び老朽化したデスクトップPC型ノンリニア編集機1式を更新しました。

### (3) 資金調達の状況

当期の事業資金につきましては、自己資金及び借入金、並びにリース取得により賄いました。

### (4) 対処すべき課題

#### ◇当社を取り巻く状況

当社は、1952年の創業以来、ラジオ・テレビの放送を通して新潟県民を中心に報道・娯楽などの情報を提供する事業を主に展開してきました。近年、テクノロジーの急速な進歩や新型コロナウイルスの感染拡大の影響などで、その事業環境は大きな変革期を迎えています。インターネットの普及で電波による放送はこれまでの優位性が失われつつあり、インターネット広告費はテレビメディア広告費を超えました。また新型コロナウイルスの感染拡大により、生活様式の変化が求められています。放送業界ではインターネット回線を通じた常時同時配信が始まっていて、携帯電話の通信方式も5G「第5世代移動通信システム」により、通信速度が格段に進化しました。あらゆる分野でデジタルシフトが進んでいる状況で、環境の変化に柔軟に対応していくことが放送局としても大きな課題の一つとなっています。

#### ◇今後の進むべき方針

ラジオ放送・地上波テレビ放送の広告費が減少する中、地方局にとって大切なのが「地域密着」と「新しい挑戦」です。新潟の情報産業として地域に寄り添い、様々な課題を解決していくことを通して新潟の持続的な発展に貢献していくことが重要です。報道機関として地域のいのちや暮らしを情報で守るという大きな柱は残したまま、ユーザーにとって便利な方法で、要求されている情報を届けるということです。この実現のために大きなカギとなるのがDX（デジタルトランスフォーメーション）です。DXを推し進めることで新しいビジネスを創造する。例えばデジタル技術を駆使して地域の宝に磨きをかけるといった新領域へ挑戦したいと考えています。

当社は、国連が世界の報道機関に参加を呼び掛けている「SDGメディア・コンパクト」に今年2月に加盟しました。SDGs（持続可能な開発目標）達成に向け、当社では重点的に取り組むゴールとして、3「すべての人に健康と福祉を」、4「質の高い教育をみんなに」、8「働きがいも経済成長も」、16「平和と公平をすべての人に」、17「パートナーシップで目標を達成しよう」の5つを掲げ、積極的な情報発信に努めます。

地方の人口減少、新型コロナウイルス感染拡大など生活環境の厳しさが増している状況だからこそ、新潟で生きるローカル放送局としての存在の意義をしっかりと見つめ直し、地域の課題を解決に導けるよう努力していかなくてはなりません。これまでの電波にとどまらず、様々なツールを用いて「地方放送局」から「地域メディア」を目指して進んでまいります。そしてBSNグループ全体としても、それぞれの強みを生かし、グループ会社間の共同事業の推進を図り、地域貢献と持続的な成長を果たしてまいります。株主の皆様にはより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## (5) 財産及び損益の状況の推移

| 区 分                | 2017年度<br>(第88期) | 2018年度<br>(第89期) | 2019年度<br>(第90期) | 2020年度<br>(第91期) |
|--------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 売 上 高 (百万円)        | 6,751            | 6,709            | 6,359            | 5,672            |
| 経常利益 (百万円)         | 316              | 512              | 570              | 353              |
| 当 期 純 利 益<br>(百万円) | 279              | 399              | 406              | 263              |
| 1株当たり当期純利益         | 46円57銭           | 66円55銭           | 67円73銭           | 43円86銭           |
| 総 資 産 (百万円)        | 13,116           | 13,018           | 12,794           | 13,600           |
| 純 資 産 (百万円)        | 11,611           | 11,748           | 11,660           | 12,273           |

(注) 1. 第88期におきましては、売上高、経常利益、当期純利益とも前期を下回り、減収減益となりました。

第89期におきましては、売上高は前期を下回りましたが、経常利益、当期純利益とも増益となりました。

第90期におきましては、売上高は前期を下回りましたが、経常利益、当期純利益とも増益となりました。

当期につきましては、前記「(1)事業の経過及び成果」の冒頭に記載のとおりであります。

2. 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式数（発行済株式総数から自己株式数を控除）に基づき算出しております。

## (6) 重要な子会社の状況

| 会 社 名             | 資本金 | 出資比率  | 主要な事業内容                      |
|-------------------|-----|-------|------------------------------|
|                   | 百万円 | %     |                              |
| (株) B S N ウ ェ ー ブ | 85  | 100.0 | 建物管理及び不動産業等                  |
| (株) B S N アイネット   | 200 | 65.5  | 情報処理サービス及び電算機器の販売            |
| (株) ビーアイテック       | 50  | 65.5  | パソコン機器及び関連商品の販売及びシステム建設並びに保守 |
| (株) I T ス ク エ ア   | 80  | 56.3  | 情報化戦略立案支援、情報システム導入調達支援       |

(注) (株)ビーアイテックへの出資比率は、(株)B S Nアイネットが所有する株式の間接所有分であり  
ます。また、(株)I Tスクエアへの出資比率は、直接所有分及び(株)B S Nアイネットが所有す  
る株式の間接所有分であり、それぞれ当社の実質持分を示しております。

当社の連結決算における連結対象子会社は前記の重要な子会社4社であり、当期の連結売上高  
は213億8百万円（前期比12億5千6百万円減）、連結経常利益は12億6千2百万円（前期比3  
億3千2百万円減）、親会社株主に帰属する当期純利益は6億6千8百万円（前期比4千4百万円  
減）となりました。

## (7) 主要な事業内容

当社の主要な事業内容は、放送法による基幹放送事業及び一般放送事業（ラジオ・テレビの放  
送）であります。なお、主な収益内容につきましては部門別の概況に記載のとおりです。

## (8) 事業所及び放送所

### ① 当社

|            |   |                     |                    |                    |
|------------|---|---------------------|--------------------|--------------------|
| 本          | 社 | 新潟県新潟市中央区川岸町3丁目18番地 |                    |                    |
| 事          | 業 | 局                   | 新潟県新潟市中央区万代3丁目1番1号 |                    |
| 長          | 岡 | 支                   | 社                  | 新潟県長岡市千歳1丁目3番43号   |
| 上          | 越 | 支                   | 社                  | 新潟県上越市木田1丁目2番4号    |
| 東          | 京 | 支                   | 社                  | 東京都中央区銀座5丁目15番1号   |
| 大          | 阪 | 支                   | 社                  | 大阪府大阪市西区江戸堀1丁目9番1号 |
| ラジオ放送所     |   |                     |                    | (新潟県内10局)          |
| デジタルテレビ放送所 |   |                     |                    | (新潟県内53局)          |

(注) 東京支社は2021年4月19日より東京都港区赤坂2丁目5番8号に移転しました。

### ② 子会社

|                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| (株) B S N ウ ェ ー ブ   | 新潟県新潟市中央区万代3丁目1番1号   |
| (株) B S N ア イ ネ ッ ト | 新潟県新潟市中央区米山2丁目5番地1   |
| (株) ビ ー ア イ テ ッ ク   | 新潟県新潟市中央区米山1丁目11番地11 |
| (株) I T ス ク エ ア     | 新潟県新潟市中央区万代3丁目1番1号   |

(9) 従業員の状況

当社の従業員の状況（2021年3月31日 現在）

| 従業員数 | 前期末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|------|--------|-------|--------|
| 121名 | 4名減    | 42.9歳 | 17.6年  |

(10) 主要な借入先の状況（2021年3月31日現在）

該当事項はありません。

## 2. 会社の株式に関する事項 (2021年3月31日現在)

### (1) 株式数

- ① 発行可能株式総数 10,000,000株
- ② 発行済株式総数 6,000,000株 (自己株式1,102株含)

### (2) 株主数

924名 (前期末比125名減)

### (3) 大株主

| 株 主 名                               | 持 株 数   | 持株比率 |
|-------------------------------------|---------|------|
|                                     | 株       | %    |
| 1 株 式 会 社 新 潟 日 報 社                 | 852,800 | 14.2 |
| 2 越 後 交 通 株 式 会 社                   | 579,050 | 9.6  |
| 3 光 通 信 株 式 会 社                     | 574,600 | 9.5  |
| 4 株 式 会 社 T B S ホ ー ル デ ィ ン グ ス     | 485,000 | 8.0  |
| 5 株 式 会 社 第 四 北 越 銀 行               | 299,600 | 4.9  |
| 6 第 四 リ ー ス 株 式 会 社                 | 256,500 | 4.2  |
| 7 サ ト ウ 食 品 株 式 会 社                 | 136,000 | 2.2  |
| 8 R O Y A L B A N K O F C A N A D A | 120,000 | 2.0  |
| 9 み ず ほ 信 託 銀 行 株 式 会 社             | 107,000 | 1.7  |
| 10 株 式 会 社 大 光 銀 行                  | 90,000  | 1.5  |
| 10 日 本 生 命 保 険 相 互 会 社              | 90,000  | 1.5  |

(注)持株比率は、発行済株式総数から自己株式を控除した株式数(5,998,898株)を基準に算出し、小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。

### (4) その他株式に関する重要な事項

- ① 当事業年度末日における自己株式 普通株式1,102株
- ② 単元未満株式の買取りによる取得

|              |         |
|--------------|---------|
| 取得した株式の種類及び数 | 普通株式 0株 |
| 取得価額の総額      | 0円      |

(注)期中の単元未満株式の買取りはなく、当事業年度末日における自己株式は普通株式1,102株となっております。

## 3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4. 会社役員に関する事項

### (1) 取締役及び監査役の氏名等 (2021年3月31日現在)

| 地 位           | 担当及び重要な兼職の状況                                 | 氏 名     |
|---------------|----------------------------------------------|---------|
| 代 表 取 締 役 社 長 | 全般統括・関係会社統括                                  | 佐 藤 隆 夫 |
| 専 務 取 締 役     | 全般統括補佐                                       | 島 田 好 久 |
| 常 務 取 締 役     | 営業本部長                                        | 大 竹 正 敏 |
| 取 締 役         | メディア本部長・技術局長                                 | 五十嵐 幹 史 |
| 取 締 役         | 経営管理本部長・CSR推進室長                              | 宮 腰 尊 史 |
| 取 締 役         | (株)BSNアイネット 代表取締役会長                          | 梅 津 雅 之 |
| 取 締 役         | (株)新潟日報社 代表取締役社長<br>社会福祉法人新潟県共同募金会会長         | 小 田 敏 三 |
| 取 締 役         | (株)第四北越フィナンシャルグループ 代表取締役社長<br>(株)第四北越銀行取締役頭取 | 並 木 富士雄 |
| 取 締 役         | TBSテレビ 執行役員                                  | 島 田 喜 広 |
| 監 査 役 ( 常 勤 ) |                                              | 小 原 弘 志 |
| 監 査 役         | (株)新潟日報社 相談役                                 | 高 橋 道 映 |
| 監 査 役         | 税理士                                          | 瀬 賀 弥 平 |
| 監 査 役         | (株)和田商会代表取締役社長                               | 和 田 晋 弥 |

- (注) 1. 2020年6月25日開催の第90回定時株主総会終結の時をもって、金田博幸氏、小原弘志氏、龍宝正峰氏は任期満了により取締役を退任いたしました。
2. 2020年6月25日開催の第90回定時株主総会において、新たに五十嵐幹史氏、宮腰尊史氏、島田喜広氏が取締役に選任され、就任いたしました。
3. 2020年6月25日開催の第90回定時株主総会において、五十嵐幹史氏は任期満了により監査役を退任いたしました。
4. 2020年6月25日開催の第90回定時株主総会において、新たに小原弘志氏が監査役に選任され、就任いたしました。
5. 取締役のうち、小田敏三、並木富士雄、島田喜広の各氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
6. 監査役のうち高橋道映氏は、当社取締役の経歴があるため、社外監査役にはあたりません。
7. 監査役のうち、瀬賀弥平、和田晋弥の各氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
8. 監査役瀬賀弥平氏は、税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
9. 監査役和田晋弥氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

## (2) 取締役及び監査役の報酬等の額

### ① 当事業年度に係る報酬等

| 区 分                | 支払人員        | 報酬等の総額                       |
|--------------------|-------------|------------------------------|
| 取 締 役<br>(うち社外取締役) | 12名<br>(4名) | 116,978,400円<br>(9,180,000円) |
| 監 査 役<br>(うち社外監査役) | 5名<br>(2名)  | 24,132,000円<br>(6,120,000円)  |

(注) 1. 上記は2020年6月25日開催の第90回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役3名と監査役1名を含んでおります。

2. 当社は、代表取締役などの業務執行取締役（社外取締役を除く）の報酬については、総額の限度額を株主総会の決議で決定したうえで、代表取締役社長佐藤隆夫が取締役会からの委任を受けて、限度額の範囲内で個別の報酬額を決定しております。

3. 取締役の報酬限度額は、2007年6月28日開催の第77回定時株主総会において年額240,000千円以内（うち社外取締役分は年額20,000千円）と決議されています。

4. 監査役の報酬限度額は、2007年6月28日開催の第77回定時株主総会において年額36,000千円以内と決議されています。

5. 業務執行取締役の報酬は2017年5月17日開催の取締役会において、前年度の営業利益が、業績予想額に対しての目標達成率をもとにした業績連動型報酬をすべてとしております。

この他、株式などの非金銭的報酬等は設けておりません。

### ② 当事業年度に支払った役員退職慰労金

役員退職慰労金の支払はありません。

## (3) 社外役員に関する事項（2021年3月31日現在）

| 氏 名<br>(当社での地位)    | 他の法人等における<br>重要な兼職の状況                       | 当社での主な活動状況<br>(取締役会及び監査役会への出席状況等)                                         |
|--------------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 小 田 敏 三<br>(社外取締役) | (株)新潟日報社代表取締役社長<br>社会福祉法人新潟県共同募金会会長         | 当期開催の取締役会7回のうち4回に出席し、地元マスコミ界の指導的な立場から適切な提言を行っており、経営全般への助言など十分に役割を果たしています。 |
| 並 木 富士雄<br>(社外取締役) | (株)第四北越フィナンシャルグループ代表取締役社長<br>(株)第四北越銀行取締役頭取 | 当期開催の取締役会7回のうち5回に出席し、地元経済界における中心的な役割を担う立場から積極的な発言を行っており、的確な助言をしています。      |
| 島 田 喜 広<br>(社外取締役) | (株)TBSテレビ執行役員                               | 就任以来、取締役会5回のうち5回に出席し、放送業界での豊富な経験と幅広い知識に基づき有意義なアドバイスを行っており、責務を十分に発揮しています。  |

| 氏 名<br>(当社での地位)    | 他の法人等における<br>重要な兼職の状況 | 当社での主な活動状況<br>(取締役会及び監査役会への出席状況等)                                    |
|--------------------|-----------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 瀬 賀 弥 平<br>(社外監査役) | 税理士                   | 当期開催の取締役会7回、監査役会6回<br>全てに出席し、専門的な知識と経験に基<br>づき適宜発言を行っております。          |
| 和 田 晋 弥<br>(社外監査役) | (株)和田商会代表取締役社長        | 当期開催の取締役会7回、監査役会6回<br>全てに出席し、企業経営者としての豊か<br>な経験に基づき適宜発言を行っておりま<br>す。 |

- (注) 1. 取締役 小田敏三氏が代表取締役社長である(株)新潟日報社は、当社の筆頭株主であるとともに、当社は報道部門をはじめとするあらゆる部門において同社と密接な業務提携の関係にあります。
2. 取締役 並木富士雄氏が代表取締役社長である(株)第四北越フィナンシャルグループの中核である(株)第四北越銀行は、事業資金調達における当社の主要な借入先であります。
3. 取締役 島田喜広氏が執行役員である(株)TBSテレビは、当社が加盟するJNNネットワークのキー局で、ニュース取材、番組、技術、営業面での協力関係など当社の企業価値を維持するために不可欠な存在であり、多くの分野において密接な関係を築いております。
4. その他の重要な兼職先と当社との間に、特別な関係はありません。
5. 当社は、社外役員との責任限定契約についてはこれを締結しておりません。

## 5. 会計監査人の状況

### (1) 会計監査人の名称

新宿監査法人

### (2) 会計監査人の報酬等の額

|                                        | 金 額         |
|----------------------------------------|-------------|
| ①公認会計士法第2条第1項の業務に係る報酬等の額               | 22,800,000円 |
| ②当社及び当社子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 22,800,000円 |

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査に対する報酬等の額と金融商品取引法に基づく監査に対する報酬等の額を明確に区分しておらず、かつ、実質的にも区分できないため、上記①の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

2. 当社監査役会は、過年度における会計監査人の監査契約と実績の状況を確認するとともに監査時間及び報酬等の推移を検証したうえで、当事業年度に係る監査契約の締結にあたり取締役及び会計監査人から示された監査計画（監査日程、配員、重点項目）及び報酬額の見積りの内容を検討した結果、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額は相当であると判断し、会社法第399条第1項の同意を行いました。

### (3) 非監査業務の内容

当社は、会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務を委託していません。

### (4) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

当社では、会計監査人が会社法第340条第1項に定める解任事由に該当すると認められ、かつ改善の見込みがないと判断した場合には、監査役会が監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。

また、監査役会は、会計監査人の職務遂行状況、監査体制、独立性などが適切であるか検討し、その必要があると認められる場合には、監査役会の決議によって、会計監査人の解任または不再任の議案を株主総会に提案いたします。

## 6. 会社の体制及び方針

### (1) 業務の適正を確保するための体制（内部統制システムの基本方針）

当社は「県民のための放送局」として、ラジオ、テレビ等の番組を通じて公共の福祉、文化の向上、産業と経済の繁栄に寄与することを経営の基本理念とし、聴取者、視聴者に良質で信頼される番組を放送することにより、企業価値の向上を図り、長期にわたり安定的な経営基盤の確保に努めることを経営の基本方針としております。

当社は、経営の基本理念と基本方針を推進・実現するため、会社法第362条第4項第6号に規定する「業務の適正を確保するための体制」（内部統制システム）について以下のとおり決議いたしました。

#### 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ① 「新潟放送コンプライアンス憲章」を制定及び公表し、法令・規範の遵守はもとより人権の尊重、健全な企業活動、適正な情報管理及び不正の防止体制についても明確にする。
- ② 代表取締役が統括する「コンプライアンス委員会」を設置し、あらゆる放送活動及び企業活動における「新潟放送コンプライアンス憲章」の遵守を推進する。
- ③ 法令違反行為等に関する通報または相談の適正な処理の仕組みを定めた「公益通報者保護規程」を制定し、法令違反行為等の早期発見と是正及び通報者の保護を図る。
- ④ 通報を受け付ける窓口として「コンプライアンス ホットライン」を経営管理本部内に置いて、体制を強化した。
- ⑤ 社内外における教育研修を積極的に行い、放送人及び企業人としての確固たる倫理観の養成を図る。

#### 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ① 「文書管理規程」を制定し、取締役等の職務の執行に資する適法、適切かつ円滑な運用を図る。
- ② 「情報開示委員会」を設置し、決算情報をはじめとする重要情報を把握、管理するとともに、適時かつ適切な情報開示を図る。
- ③ 「インサイダー取引防止規程」を制定し、株式等有価証券の取引に係る適正な情報管理を図る。
- ④ 「新潟放送個人情報保護方針」に基づき個人情報に係る諸規程を制定し、当該情報に関する適法かつ公正な情報管理を図る。

#### 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① 「非常事態対策委員会」を設置するとともに、「非常事態対策ハンドブック」を制定し、事件及び災害等の非常事態における従業員等の安全の確保及び放送の継続に備える。また、「緊急及び災害時の報道体制要領」を定め、報道機関としての使命遂行に全力を挙げる体制を構築する。

- ② 「BSN情報セキュリティ方針」に基づき、IT関連の情報セキュリティに係る諸規程を制定し、故意、偶然によらず、情報等の改ざん、破壊、漏洩等からの保護を図る。

### **取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制**

- ① 「新潟放送取締役会規程」に基づき、取締役会を年7回定例開催し、経営に係る執行方針、法定事項への対応、その他重要事項を決定するとともに、四半期業績をはじめとする取締役の職務の執行状況を監督する。なお、取締役会は必要に応じて随時開催する。
- ② 常勤の取締役で構成する「常務会」を原則として週1回開催し、業務執行に係る基本的事項及び重要事項に係る意思決定を機動的に行う。
- ③ 本社常勤の取締役と局長で構成する「局長連絡会議」を原則として週1回開催し、業務執行に係る意思統一を図るとともに、情報の伝達と共有化を迅速に行う。また、常勤の取締役、局長及び支社長で構成する「全社局長会議」は、原則として月1回開催する。

### **当社グループ（企業集団）における業務の適正を確保するための体制**

- ① 「BSNグループ行動規範」を制定及び公表し、法令・規範の遵守はもとより、人権の尊重、健全な企業活動、適正な情報管理及び不正の防止体制についても明確にし、コンプライアンスに係る企業集団としての理念の統一を図る。
- ② 「関係会社経営会議」を原則として月1回開催し、各社の業績をはじめとする取締役等の職務に係る報告、審議を行うとともに、グループ全体に係る重要事項を決定し、グループ経営における健全性及び効率性の向上を図る。
- ③ 「関係会社経理担当者会議」を四半期ごとに開催し、四半期業績をはじめとする財務経理面に関する報告等を行い、当社グループにおける取締役の適正な経営判断に資する。

### **監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制**

- ① 監査役がその職務を補助すべき使用人（兼務者を含む）を置くことを求めた場合には、監査役の職務を補助する範囲において、当該使用人の取締役からの独立性及び監査役からの指示の実効性が確保できる体制の構築を図る。
- ② 監査役が当社グループにおける業務または業績に影響を与える重要な課題を把握するため、「常務会」「局長連絡会議」「全社局長会議」「関係会社経営会議」「関係会社経理担当者会議」その他重要な会議に出席するとともに、使用人、会計監査人、子会社の監査役等に定期的かつ随時に報告を求めることができる体制の維持を図る。
- ③ 当社グループの役員及び使用人等が当社の監査役に対し、当社グループに著しい損害を及ぼす事実が生じ、または生じるおそれがある旨の報告をした場合には、「公益通報者保護規程」を準用し、当該報告者が不利な扱いを受けないことを確保する。
- ④ 監査役の職務の執行について生じる費用等については、会社法第388条に基づき、速やかに処理する。

## 財務報告の信頼性を確保するための体制

- ① 「金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制の有効性評価に係る基本方針」に基づき当該規程を制定し、財務報告に係る内部統制の評価及び監査の実施に適応した運用を図る。
- ② 代表取締役が最高責任者となる「財務報告に係る内部統制委員会」を当社及び重要な子会社に設置し、当社グループにおける財務報告の確保を図る。

## (2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社は、2015年5月1日の改正会社法の施行に対応するとともに、2015年6月1日のコーポレートガバナンス・コードの実施にも意を用い、それまでの「業務の適正を確保するための体制（内部統制システムの基本方針）」に関する見直し等の検討を続けた後、取締役会において同基本方針の一部改訂を行いました。

これに伴い「取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制」においては、「文書管理規程」を全面改訂し、時宜に即した運用を図りました。

「損失の危険の管理に関する規程その他の体制」においては、「BSN情報セキュリティ方針」に基づく「情報セキュリティ総括規程」を一部改訂し、不正アクセスやウイルス等によるシステムやデータの破壊及び情報の漏洩や侵奪等に備えました。

また、「当社グループ（企業集団）における業務の適正を確保するための体制」においては、従前から定例開催している「関係会社経営会議」に加え、連結5社の常勤役員全員が出席する「BSNグループ役員会議」を定例の開催とし、中期的な経営計画等の確認を行うほか、企業集団としてのコンプライアンスに係る理念の統一に努めました。

## (3) 株式会社の支配に関する基本方針

当社は「県民のための放送局」として、ラジオ、テレビ等の放送を通じて公共の福祉、文化の向上、産業と経済の発展に寄与することを経営の基本理念としており、良質で信頼される番組を放送することにより、長期にわたる安定的な経営基盤の確保に努めております。

また、当社が株式を公開している上場企業である以上、株式市場で当社株式の自由な売買がなされることは当然のことであり、当社株式に対して大規模な買付けを企図する特定の株主等が出現したといたしましても、それに対する対応は、最終的には当社株式を保有する株主の皆様の判断に委ねられるものと認識しております。

現在のところ、当社株式の大量買付けに係る具体的な脅威等は生じておりませんが、当社といたしましては、そのような買付者が出現した場合の具体的な施策を予め定めるものではありません。

但し、万一、大量の株式取得を企図する者が現れ、その意図が前述した当社の基本理念に反し、既存の株主の利益を損なうことが明らかであると判断したときは、直ちに最も適切であると思われる措置を講じる所存です。

なお、多くの株主の皆様から負託を受けた経営者の責務として、当社株式の異動状況を常に把握するとともに、買収行為に係る法制度や世間の動向等を注視しながら、適切かつ必要な施策の検討を継続してまいりたいと存じます。

#### **(4) 剰余金の配当等の決定に関する方針**

当社は、剰余金の処分に関しては、取締役会によらず株主総会における決議事項としておりますが、その議案を上程するにあたりましては、長期にわたる安定した経営基盤のもとに、株主の皆様へ安定的な配当を継続することを基本方針の支柱としております。

また、安定した経営基盤を確保することにおいて、財務内容の改善及び事業の整備・拡充を行うために利益の一部を留保し、ラジオ、テレビ等の番組ソフトの研究開発や放送設備や社屋設備への投資に充当することも、安定かつ強固な経営基盤を確保するための重要な基本方針の一つとして位置づけております。

# 貸借対照表

(2021年3月31日現在)

| 科 目             | 金 額               | 科 目              | 金 額               |
|-----------------|-------------------|------------------|-------------------|
| (資産の部)          | 千円                | (負債の部)           | 千円                |
| <b>流動資産</b>     | <b>4,133,091</b>  | <b>流動負債</b>      | <b>865,779</b>    |
| 現金及び預金          | 2,329,676         | リース債務            | 72,916            |
| 受取手形            | 165               | 代理店未払金           | 272,269           |
| 売掛金             | 1,375,631         | 未払金              | 277,935           |
| 未収入金            | 237,560           | 設備関係未払金          | 37,231            |
| 貯蔵品             | 3,743             | 未払法人税等           | 5,856             |
| その他の            | 187,767           | 賞与引当金            | 130,050           |
| 貸倒引当金           | △1,452            | その他の             | 69,520            |
| <b>固定資産</b>     | <b>9,467,870</b>  | <b>固定負債</b>      | <b>461,666</b>    |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>3,745,537</b>  | リース債務            | 195,827           |
| 建物              | 1,393,994         | 長期未払金            | 41,520            |
| 構築物             | 229,421           | 繰延税金負債           | 223,859           |
| 機械及び装置          | 608,967           | その他の             | 459               |
| 車両及び運搬具         | 1,190             | <b>負債合計</b>      | <b>1,327,446</b>  |
| 工具器具及び備品        | 37,780            | (純資産の部)          |                   |
| 土地              | 1,401,249         | <b>株主資本</b>      | <b>11,840,826</b> |
| リース資産           | 72,933            | 資本金              | 300,000           |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>354,682</b>    | 資本剰余金            | 5,750             |
| 借地権             | 3,830             | 資本準備金            | 5,750             |
| ソフトウェア          | 128,558           | <b>利益剰余金</b>     | <b>11,535,880</b> |
| ソフトウェア仮勘定       | 46,634            | 利益準備金            | 75,000            |
| リース資産           | 175,660           | その他利益剰余金         | 11,460,880        |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>5,367,650</b>  | 放送設備更新積立金        | 1,700,000         |
| 投資有価証券          | 3,155,177         | 社屋改修積立金          | 600,000           |
| 関係会社株式          | 259,213           | 別途積立金            | 8,108,400         |
| 差入保証金           | 20,109            | 繰越利益剰余金          | 1,052,480         |
| 美術用品            | 212,168           | <b>自己株式</b>      | <b>△805</b>       |
| 前払年金費用          | 1,669,293         | <b>評価・換算差額等</b>  | <b>432,690</b>    |
| その他の            | 77,552            | その他有価証券評価差額金     | 432,690           |
| 貸倒引当金           | △25,864           | <b>純資産合計</b>     | <b>12,273,516</b> |
| <b>資産合計</b>     | <b>13,600,962</b> | <b>負債及び純資産合計</b> | <b>13,600,962</b> |

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

# 損 益 計 算 書

自 2020年4月 1日

至 2021年3月31日

| 科 目 |   |   |   |   | 金 額       |           |
|-----|---|---|---|---|-----------|-----------|
|     |   |   |   |   | 千円        | 千円        |
| 営   | 業 | 収 | 益 | 入 |           |           |
| ラ   | ジ | オ | 収 | 入 | 660,740   |           |
| テ   | レ | ビ | 収 | 入 | 4,479,395 |           |
| そ   | の | 他 | の | 入 | 532,317   | 5,672,454 |
| 営   | 業 | 費 | 業 | 用 |           |           |
| 放   | 送 | 事 | 業 | 費 | 2,338,948 |           |
| そ   | の | 他 | 事 | 費 | 403,288   | 2,742,236 |
| 売   | 上 | 総 | 利 | 益 |           | 2,930,217 |
| 販   | 費 | 一 | 管 | 費 |           |           |
| 販   | 及 | 売 | 理 | 費 | 1,673,394 |           |
| 一   | 般 | 管 | 理 | 費 | 1,023,999 | 2,697,394 |
| 営   | 業 | 利 | 益 |   |           | 232,822   |
| 営   | 業 | 外 | 収 | 益 |           |           |
| 受   | 取 | 利 | ・ | 当 | 87,830    |           |
| 補   | 助 | 金 | 配 | 金 | 45,673    |           |
| そ   |   | の | 収 | 入 | 26,665    | 160,168   |
| 営   | 業 | 外 | 費 | 用 |           |           |
| 支   | 払 | の | 利 | 息 | 353       |           |
| そ   |   |   |   | 他 | 38,825    | 39,179    |
| 経   | 常 | 利 | 益 |   |           | 353,811   |
| 特   | 別 | 利 | 益 |   |           |           |
| 投   | 資 | 価 | 証 | 券 | 123,277   |           |
| 建   | 有 | 助 | 成 | 却 | 26,120    | 149,397   |
| 特   | 別 | 損 | 失 |   |           |           |
| 固   | 定 | 資 | 産 | 除 | 909       |           |
| 固   | 定 | 資 | 産 | 圧 | 45,673    |           |
| 投   | 資 | 有 | 価 | 証 | 2,064     |           |
| 投   | 資 | 有 | 価 | 証 | 6,999     | 55,647    |
| 税   | 引 | 前 | 当 | 期 |           | 447,561   |
| 法   | 人 | ・ | 住 | 民 | 17,922    |           |
| 法   | 人 | 税 | 等 | 調 | 166,521   | 184,444   |
| 当   | 期 | 純 | 利 | 益 |           | 263,117   |

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

## 株主資本等変動計算書

(自 2020年4月1日)  
(至 2021年3月31日)

| 項 目                        | 株 主 資 本     |               |               |                       |                     |               |                     |
|----------------------------|-------------|---------------|---------------|-----------------------|---------------------|---------------|---------------------|
|                            | 資本金<br>(千円) | 資本剰余金         |               | 利 益 剰 余 金             |                     |               |                     |
|                            |             | 資本準備金<br>(千円) | 利益準備金<br>(千円) | その他利益剰余金              |                     |               |                     |
|                            |             |               |               | 放送設備<br>更新積立金<br>(千円) | 社屋改修<br>積立金<br>(千円) | 別途積立金<br>(千円) | 繰越利益<br>剰余金<br>(千円) |
| 2020年4月1日残高                | 300,000     | 5,750         | 75,000        | 1,400,000             | 400,000             | 8,108,400     | 1,334,355           |
| 事業年度中変動額                   |             |               |               |                       |                     |               |                     |
| 放送設備更新積立金の積立               |             |               |               | 300,000               |                     |               | △300,000            |
| 社屋改修積立金の積立                 |             |               |               |                       | 200,000             |               | △200,000            |
| 剰余金の配当                     |             |               |               |                       |                     |               | △44,991             |
| 当期純利益                      |             |               |               |                       |                     |               | 263,117             |
| 株主資本以外の項目の<br>事業年度中変動額（純額） |             |               |               |                       |                     |               |                     |
| 事業年度中変動額合計                 | －           | －             | －             | 300,000               | 200,000             | －             | △281,874            |
| 2021年3月31日残高               | 300,000     | 5,750         | 75,000        | 1,700,000             | 600,000             | 8,108,400     | 1,052,480           |

| 項 目                        | 株 主 資 本                  |              |                | 評 価 ・ 換 算 差 額 等          | 純資産合計<br>(千円) |
|----------------------------|--------------------------|--------------|----------------|--------------------------|---------------|
|                            | 利益剰余金                    | 自己株式<br>(千円) | 株主資本合計<br>(千円) | その他有価証券<br>評価差額金<br>(千円) |               |
|                            | 利 益 剰 余 金<br>合 計 ( 千 円 ) |              |                |                          |               |
| 2020年4月1日残高                | 11,317,755               | △805         | 11,622,700     | 37,970                   | 11,660,671    |
| 事業年度中変動額                   |                          |              |                |                          |               |
| 放送設備更新積立金の積立               | －                        |              | －              |                          | －             |
| 社屋改修積立金の積立                 | －                        |              | －              |                          | －             |
| 剰余金の配当                     | △44,991                  |              | △44,991        |                          | △44,991       |
| 当期純利益                      | 263,117                  |              | 263,117        |                          | 263,117       |
| 株主資本以外の項目の<br>事業年度中変動額（純額） |                          |              |                | 394,719                  | 394,719       |
| 事業年度中変動額合計                 | 218,125                  | －            | 218,125        | 394,719                  | 612,845       |
| 2021年3月31日残高               | 11,535,880               | △805         | 11,840,826     | 432,690                  | 12,273,516    |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

## 個 別 注 記 表

### 重要な会計方針に係る事項

#### 1. たな卸資産の評価基準及び評価方法

先入先出法による原価法によっております。  
(収益性の低下による簿価切下げの方法)

#### 2. 有価証券の評価基準及び評価方法

関係会社株式

移動平均法による原価法によっております。

その他有価証券

時価のあるものは決算期末日の市場価格等に基づく時価法によっております。

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないものは移動平均法による原価法によっております。

#### 3. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 固定資産 (リース資産を除く)

定額法によっております。

(自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間 (5 年) に基づく定額法を採用)

##### (2) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

#### 4. 引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

売上債権等の貸倒れ損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、また、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### (2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

##### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

また、当社は当事業年度末において、年金資産の額が退職給付債務に未認識数理計算上の差異を加減した額を超えているため、前払年金費用として投資その他の資産に表示しております。

##### ①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

## ②数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

## 5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

### 消費税等の会計処理方法

税抜方式を採用しております。

### （表示方法の変更に関する注記）

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用に伴う変更

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号 2020年3月31日）を当事業年度から適用し、個別注記表に「会計上の見積りに関する注記」を記載しております。

### （会計上の見積りに関する注記）

計算書類の作成にあたって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、重要なものは以下のとおりであります。また新型コロナウイルス感染症の影響に関して、当社は現時点では、今後の広がり方や収束時期等を予測することは困難なことから、当年度末時点で入手可能な外部の情報を踏まえて、今後、2022年3月期の一定期間にわたり当該影響が継続するとの仮定の下、会計上の見積りを行っております。

#### ①繰延税金資産の回収可能性

当年度計上額

繰延税金資産 244,863千円

繰延税金負債 468,722千円

繰延税金資産は毎期、過去の課税所得の推移や将来の課税所得の見込等を勘案し、回収可能性を慎重に検討し計上しております。回収の実現性が低いと判断した場合には適正と考えられる金額へ減額する可能性があります。

#### ②固定資産の減損

当年度計上額

減損損失 一千円

固定資産については、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損処理の要否を検討しております。資産計上した放送機器等について、事業環境の悪化等で当初想定した投資回収が見込めなくなり、減損の必要性を認識した場合には、固定資産の減損処理を実施する可能性があります。

### （貸借対照表の注記）

|                   |             |
|-------------------|-------------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額 | 7,244,900千円 |
| 有形固定資産の減損損失累計額    | 3,565千円     |

2. 関係会社に対するものが次のとおり含まれております。

|      |          |
|------|----------|
| 短期債権 | 14,363千円 |
| 短期債務 | 64,087千円 |

3. 担保に供している資産

|      |             |
|------|-------------|
| 定期預金 | 100,000千円   |
| 建物   | 698,636千円   |
| 土地   | 1,047,429千円 |

(注) 定期預金は関係会社及び従業員の借入金の保証として担保に供しております。  
建物・土地は借入金の担保に供しております。

4. 保証債務等

|      |            |          |
|------|------------|----------|
| 保証債務 | 新潟放送従業員借入金 | 30,630千円 |
|------|------------|----------|

#### (損益計算書の注記)

関係会社との取引

営業取引による取引高

|     |          |
|-----|----------|
| 売上高 | 77,377千円 |
|-----|----------|

|     |           |
|-----|-----------|
| 仕入高 | 478,383千円 |
|-----|-----------|

|            |         |
|------------|---------|
| 営業取引以外の取引高 | 8,801千円 |
|------------|---------|

#### (株主資本等変動計算書の注記)

1. 当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

|      |        |
|------|--------|
| 普通株式 | 1,102株 |
|------|--------|

2. 当事業年度末における発行済株式の種類及び総数

|      |            |
|------|------------|
| 普通株式 | 6,000,000株 |
|------|------------|

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議               | 種類   | 配当金総額<br>(千円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日            | 効力発生日          |
|------------------|------|---------------|-----------------|----------------|----------------|
| 2020年6月25日定時株主総会 | 普通株式 | 22,495        | 3.75            | 2020年<br>3月31日 | 2020年<br>6月26日 |
| 2020年11月13日取締役会  | 普通株式 | 22,495        | 3.75            | 2020年<br>9月30日 | 2020年<br>12月3日 |

- (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの  
2021年6月24日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

|            |                      |
|------------|----------------------|
| ① 配当金の総額   | 22,495千円             |
| ② 1株当たり配当額 | 3.75円<br>(普通配当3.75円) |
| ③ 基準日      | 2021年3月31日           |
| ④ 効力発生日    | 2021年6月25日           |

## (金融商品に関する注記)

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針です。なお、デリバティブ取引は行っておりません。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権は、取引先ごとの期日及び残高の管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を把握する体制としております。

有価証券及び投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握する体制としております。

営業債務である未払金は、1年以内の支払期日です。

### 2. 金融商品の時価等に関する事項

2021年3月31日（当期決算日）における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。（（注2）をご参照ください。）

（単位：千円）

|                 | 貸借対照表計上額  | 時価        | 差額 |
|-----------------|-----------|-----------|----|
| (1) 現金及び預金      | 2,329,676 | 2,329,676 | —  |
| (2) 受取手形及び売掛金   | 1,375,796 | 1,375,796 | —  |
| (3) 投資有価証券      |           |           |    |
| その他有価証券         | 3,037,703 | 3,037,703 | —  |
| (4) 未払金（※1）     | (277,935) | (277,935) | —  |
| (5) 設備関係未払金(※1) | (37,231)  | (37,231)  | —  |

(※1)負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっております。

なお、有価証券はその他有価証券として保有しており、これに関する貸借対照表計上額と取得原価との差額は次のとおりであります。

(単位：千円)

| 区分                   | 取得原価      | 貸借対照表計上額  | 差額      |
|----------------------|-----------|-----------|---------|
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの  |           |           |         |
| 株式                   | 1,474,436 | 2,084,318 | 609,881 |
| 債券                   |           |           |         |
| 公社債                  | 170,000   | 171,021   | 1,021   |
| その他                  | 197,307   | 234,374   | 37,066  |
| 小計                   | 1,841,744 | 2,489,713 | 647,968 |
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの |           |           |         |
| 株式                   | 285,420   | 268,567   | △16,852 |
| 債券                   |           |           |         |
| 公社債                  | 210,000   | 204,807   | △5,193  |
| その他                  | 81,247    | 74,616    | △6,630  |
| 小計                   | 576,667   | 547,990   | △28,676 |
| 合計                   | 2,418,411 | 3,037,703 | 619,292 |

(4) 未払金及び(5) 設備関係未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

| 区分    | 貸借対照表計上額 |
|-------|----------|
| 非上場株式 | 117,473  |

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

**(税効果会計に関する注記)**

繰延税金資産の発生的主要原因別の内訳

繰延税金資産

|                        |            |
|------------------------|------------|
| 賞与引当金損金算入限度超過額         | 39,665千円   |
| 株式評価損                  | 15,119千円   |
| 役員退職慰労金                | 12,663千円   |
| 繰越欠損金                  | 511,601千円  |
| その他                    | 27,966千円   |
| 繰延税金資産小計               | 607,016千円  |
| 税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額     | △336,995千円 |
| 将来性減算一時差異等の合計に係る評価性引当額 | △25,158千円  |
| 評価性引当額小計               | △362,152千円 |
| 繰延税金資産合計               | 244,863千円  |
| 繰延税金負債                 |            |
| 退職給付引当金繰入額             | △282,121千円 |
| その他有価証券評価差額金           | △186,601千円 |
| 繰延税金負債合計               | △468,722千円 |
| 繰延税金負債の純額              | 223,859千円  |

税務上の繰越欠損金およびその繰延税金資産の繰越期限別の金額 (単位：千円)

|            | 1年以内 | 1年超2年以内 | 2年超3年以内  | 3年超 | 合計       |
|------------|------|---------|----------|-----|----------|
| 税務上の繰越欠損金* | —    | —       | 511,601  | —   | 511,601  |
| 評価性引当額     | —    | —       | △336,995 | —   | △336,995 |
| 繰延税金資産     | —    | —       | 174,606  | —   | 174,606  |

\* 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

**(リースにより使用する固定資産に関する注記)**

貸借対照表に計上した固定資産のほか、事務機器、放送設備、車輛等の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

**(1株当たり情報に関する注記)**

- 1株当たり純資産額 2,045円96銭
- 1株当たり当期純利益 43円86銭

(ご参考)

# 連結貸借対照表

(2021年3月31日現在)

| 科 目                | 金 額               | 科 目                  | 金 額                |
|--------------------|-------------------|----------------------|--------------------|
| (資産の部)             | 千円                | (負債の部)               | 千円                 |
| <b>流 動 資 産</b>     | <b>12,606,129</b> | <b>流 動 負 債</b>       | <b>4,635,407</b>   |
| 現金及び預金             | 6,893,984         | 未払金                  | 3,034,296          |
| 受取手形及び売掛金          | 4,476,519         | 短期借入金                | 360,800            |
| 商 品                | 387,980           | リ ー ス 債 務            | 393,178            |
| 原 材 料              | 12,136            | 未払法人税等               | 64,003             |
| 仕 掛 品              | 278,585           | 未払消費税等               | 107,653            |
| そ の 他              | 563,764           | 製品保証引当金              | 32,000             |
| 貸倒引当金              | △6,841            | 賞与引当金                | 398,570            |
|                    |                   | 役員賞与引当金              | 16,600             |
|                    |                   | そ の 他                | 228,307            |
| <b>固 定 資 産</b>     | <b>12,651,667</b> | <b>固 定 負 債</b>       | <b>1,112,221</b>   |
| <b>有 形 固 定 資 産</b> | <b>6,507,019</b>  | 長期借入金                | 13,900             |
| 建物及び構築物            | 2,396,311         | 役員退職慰労引当金            | 83,228             |
| 機械装置及び運搬具          | 616,933           | 退職給付に係る負債            | 202,005            |
| 土 地                | 2,442,652         | リ ー ス 債 務            | 742,370            |
| リ ー ス 資 産          | 868,952           | 繰延税金負債               | 19,477             |
| そ の 他              | 182,169           | そ の 他                | 51,239             |
| <b>無 形 固 定 資 産</b> | <b>441,164</b>    | <b>負 債 合 計</b>       | <b>5,747,628</b>   |
| ソフトウェア             | 164,064           | (純資産の部)              |                    |
| リ ー ス 資 産          | 175,660           | <b>株 主 資 本</b>       | <b>116,721,825</b> |
| そ の 他              | 101,440           | 資 本 金                | 300,000            |
|                    |                   | 資 本 剰 余 金            | 5,750              |
| <b>投資その他の資産</b>    | <b>5,703,483</b>  | 利 益 剰 余 金            | 16,416,879         |
| 投資有価証券             | 3,314,743         | 自 己 株 式              | △805               |
| 退職給付に係る資産          | 1,827,568         | <b>その他の包括利益累計額</b>   | <b>539,836</b>     |
| そ の 他              | 587,036           | その他有価証券評価差額金         | 429,835            |
| 貸倒引当金              | △25,864           | 退職給付に係る調整累計額         | 110,001            |
| <b>資 産 合 計</b>     | <b>25,257,797</b> | <b>非 支 配 株 主 持 分</b> | <b>2,248,507</b>   |
|                    |                   | <b>純 資 産 合 計</b>     | <b>19,510,169</b>  |
|                    |                   | <b>負債及び純資産合計</b>     | <b>25,257,797</b>  |

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

(ご参考)

# 連結損益計算書

( 自 2020年 4月 1日 )  
( 至 2021年 3月 31日 )

| 科 目 |            | 金 額 |           |
|-----|------------|-----|-----------|
|     |            | 千円  | 千円        |
| 売上  | 21,308,676 |     |           |
| 売上  | 15,790,140 |     |           |
| 販売費 | 5,518,535  |     |           |
| 営業  | 4,379,770  |     |           |
| 営業  | 1,138,764  |     |           |
| 受取  | 8,156      |     |           |
| 受取  | 66,058     |     |           |
| 賃補  | 9,615      |     |           |
| 有そ  | 45,673     |     |           |
| 営   | 328        |     |           |
| 業   | 42,226     |     | 172,059   |
| 業   |            |     |           |
| 業   | 12,152     |     |           |
| 業   | 1          |     |           |
| 業   | 36,270     |     | 48,424    |
| 業   |            |     | 1,262,399 |
| 業   |            |     |           |
| 業   | 123,277    |     |           |
| 業   | 26,120     |     | 149,397   |
| 業   |            |     |           |
| 業   | 6,314      |     |           |
| 業   | 1,370      |     |           |
| 業   | 45,673     |     |           |
| 業   | 2,064      |     |           |
| 業   | 29,414     |     | 84,837    |
| 業   |            |     | 1,326,958 |
| 業   |            |     |           |
| 業   | 204,482    |     |           |
| 業   | 249,780    |     | 454,263   |
| 業   |            |     | 872,695   |
| 業   |            |     | 204,393   |
| 業   |            |     | 668,301   |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

# 会計監査人の監査報告書 謄本

## 独立監査人の監査報告書

2021年5月10日

株式会社 新潟放送  
取締役会 御中

新宿監査法人（東京都新宿区）

指定社員 公認会計士 壬 生 米 秋 ㊞  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 末 益 弘 幸 ㊞  
業務執行社員

### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社新潟放送の2020年4月1日から2021年3月31日までの第91期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、2020年4月1日から2021年3月31日までの第91期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づく審議の結果、監査役全員の一致した意見として本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

(1) 監査役会は、監査方針、監査計画等を定め、監査役の監査実施状況の報告、監査意見の交換、取締役会の議題等の審議を行うほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

(2) 各監査役は、監査役会が策定した監査役監査基準に準拠し、監査方針、監査計画等に従い、取締役及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。

① 取締役会その他重要な諸会議に出席し、取締役等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明しました。また、重要な決裁書類等を閲覧し、全ての事業所において業務及び財産の状況等を調査したほか、子会社の取締役等と意思疎通を図り、事業の報告を受けるとともに、必要に応じて説明を求めました。そして、関係会社の監査役とはグループ監査役連絡会を開き、情報交換を図りました。

② 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）に関しては、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について報告を受け、必要に応じ説明を求め、意見を表明しました。

③ 会計監査人による当社及び子会社の監査において、インターネット等を経由した手段を活用しながら、その職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、会計監査人が独立の立場を保持し適正な監査を実施しているかを監視及び検証しました。また、会計監査人から会社計算規則第131条に基づく職務の遂行に関する報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法により、第91期事業年度に係る事業報告及びその附属明細書並びに計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であり、当該体制の整備及び運用の状況について指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人新宿監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2021年5月12日

株式会社新潟放送監査役会

監査役（常勤） 小 原 弘 志 ⑩

監査役 高 橋 道 映 ⑩

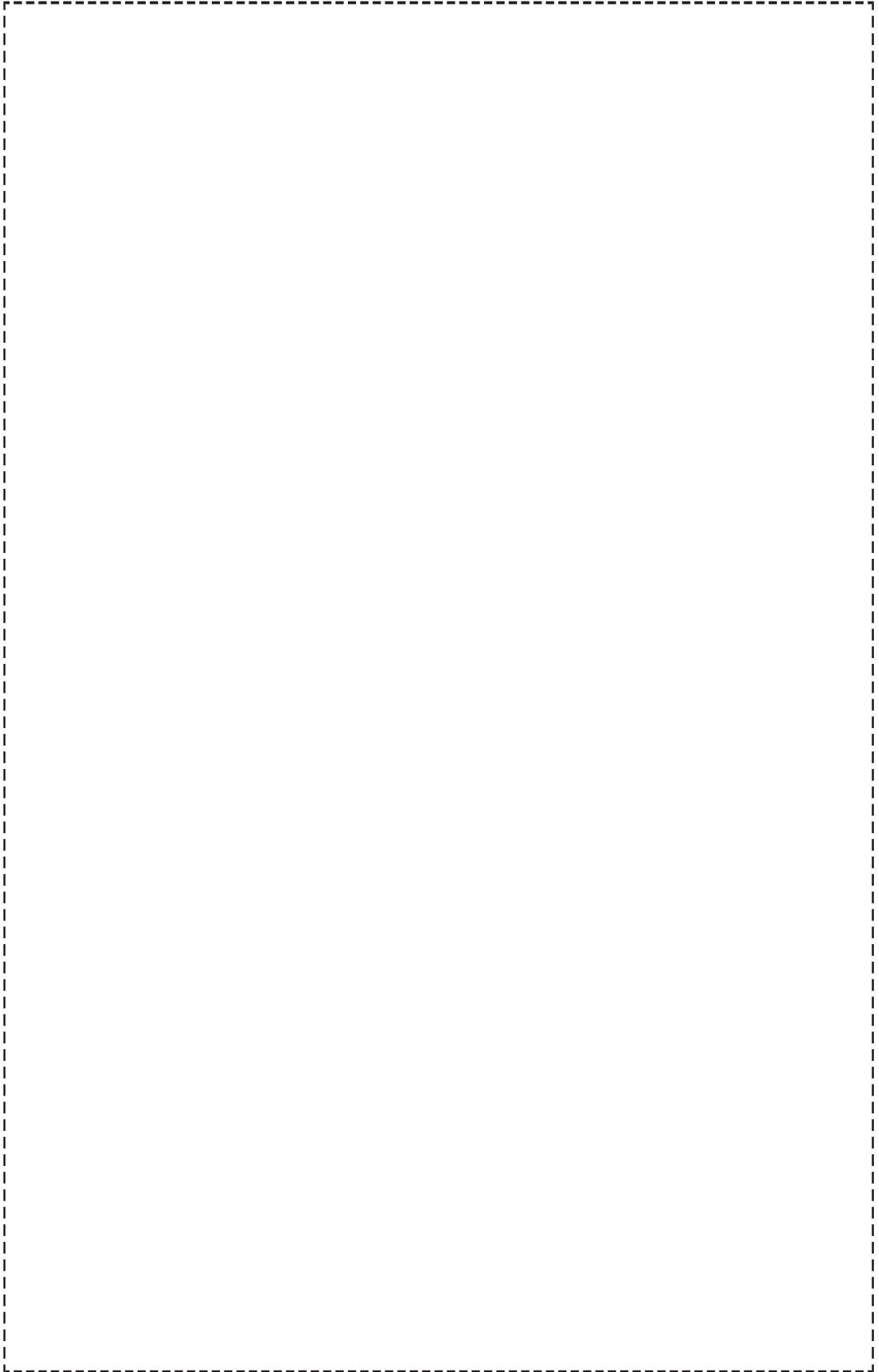
監査役 瀬 賀 弥 平 ⑩

監査役 和 田 晋 弥 ⑩

（注）監査役瀬賀弥平及び監査役和田晋弥は、会社法第2条第16号及び第335条第3項に定める社外監査役であります。

以 上

<メモ欄>



## 株主総会会場ご案内略図

【会 場】 株式会 社新潟放送 本社 1階 ラジオ第1スタジオ  
新潟市中央区川岸町3丁目18番地 ☎ (025) 267-4111



新潟駅（上越新幹線）からタクシー…約15分  
白山駅（J R 越後線）南口から……徒歩約5分  
バス停（新潟交通）B S N前から……徒歩約1分

\* 本年も、ご出席株主様へのお土産を取り止めさせていただきます。

\* 駐車場には限りがございますので、ご来場の際にはできるだけ公共交通機関をご利用ください。